

【取組内容①】『『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』

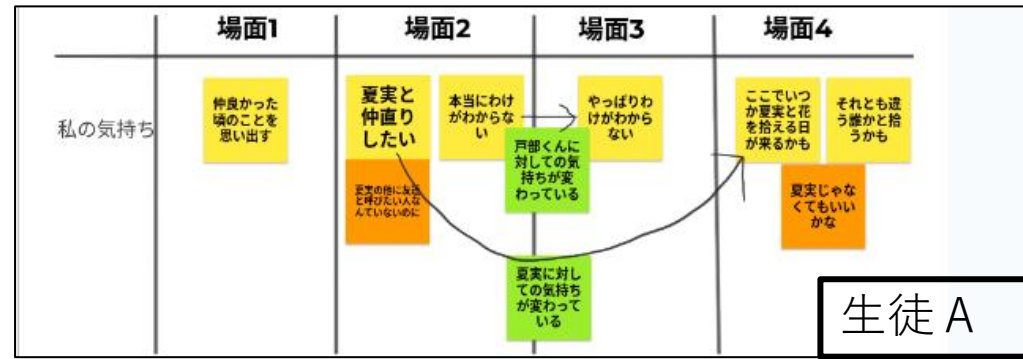
情報活用能力の育成を目指した学習活動

事例概要

本校では、教科横断的な視点に立った資質・能力の1つとして、GIGA端末を用いて情報活用能力の育成を目指した学習活動を行っている。情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑める生徒の育成を目指す。

国語科での活動

右の資料は国語科の物語教材の分析に取り組んだ生徒のジャムボードである。生徒Aは主人公の気持ちを場面の変化に対応させながら情報を整理している。生徒Bは中心的な登場人物の心情を表としてまとめている。このように、生徒によってどのように情報を収集し、整理・分析するかは違う。生徒に合った思考の仕方や考え方を行うことで個別最適な学びへと繋がっていくと考える。さらに、各自まとめた内容をクラスメイトに説明する活動を行い、それぞれの思考の仕方や考え方を共有することでより多面的で多角的な思考へ発展すると考える。



【取組内容①】『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

体育科での活動

右のジャムボードは体育科での学習活動の資料である。資料Aは、思考ツールを用いて各自が課題解決に向けて情報を収集し、整理・分析したものである。

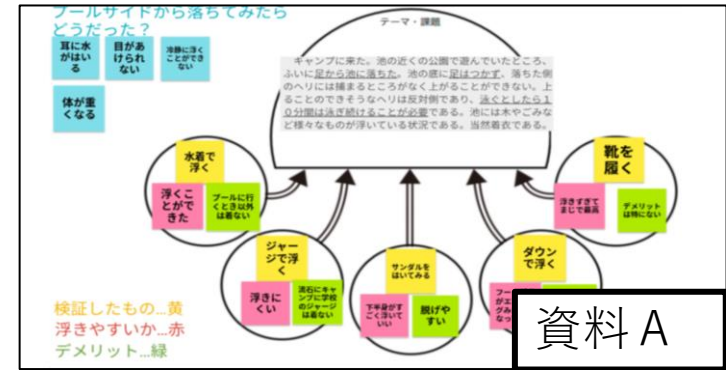
資料Bはゴール型競技を行う単元においてジャムボードが共同編集できる利点をいかし、チームで作戦をまとめた資料である。このような活動をすることで、運動が苦手な生徒も、対話的な活動に積極的に参加し、運動場面においても単元目標に迫る姿が見られるようになった。

このように、体育科においても課題解決に向けて個別最適な学びをすすめ、チーム競技の利点をいかして協働的な学びを実践している。

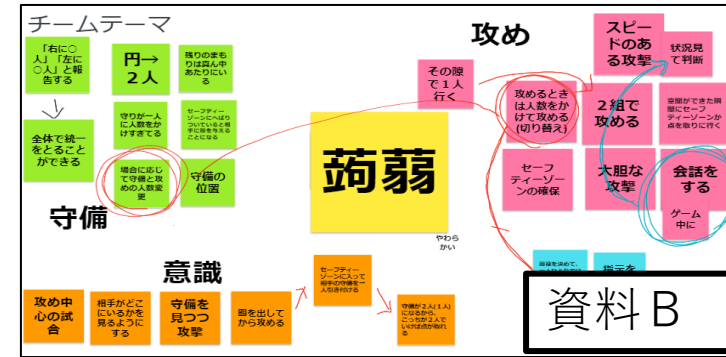
まとめ

以上のように、教科横断的な視点に立った資質・能力の1つとして、GIGA端末を用いた情報活用能力の育成を目指した学習活動を行っている。GIGA端末を用いることで、生徒は情報の収集や整理・分析方法を容易に行うことができ、クラウド環境下でこれまで以上にそれぞれの考え方や思考の仕方を共有しやすくなった。また、教員も各生徒の進捗状況を把握しやすくなり、生徒に必要な支援を講じやすくなった。

教科横断的に行うことで、場面に応じた情報の収集、整理・分析方法を選択できるようになってきた。まさに、情報を主体的に捉え、主体的に考えようとする姿である。



資料A



資料B

【取組内容④】 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

Google Chat を活用した授業検討などの教員研修・情報交換

本校では地区の小・中学校と連携し、Google chat で小・中学校の職員をメンバーとしたチャットルームを作成し、授業検討などの教員研修・情報交換に活用した。

授業動画をアップし、いつでも閲覧できるようにするとともに、授業を見た感想やアドバイスをチャットで交流することで、オンデマンドで授業検討のやり取りを行うことができるようになった。

これまで小・中学校の交流は、時間をとってどちらかに集合することが主流であったが、時間のある時に効率的に研修・交流ができ、ICT活用などについて、より情報交換できるようになった。

また、授業のみならず、講演会の情報交換や資料共有なども簡便にできるため、学校の枠を超えて対話的・協働的な会議を行うことができる。

6月19日, 12:46

2年生 数学
「連立方程式」

授業検討②.mp4

6月22日, 12:08

①授業のテンポが良く、やる事が明確で説明も分かりやすかった。連立方程式をクロムブックを使い班分けでイメージさせることで連立方程式というものを理解しやすくなると思いました。

6月22日, 14:53

①導入で、野外活動で実際に生徒が体験した内容に結びつけることで単元のないように入りやすかったと思います。保健分野でも実生活にいかに関わりつなげることで取り入れていきたいです。また、Jammuboardの活用方法がとても上手だと思いました。すぐに自分の意見を提示できる・間違えても何度も書き直せるなどJammuboardの特徴を活かした活用ができるようにしていきたいです。

6月22日, 17:15

藤山台小学校の 〇〇 様、中学校の授業の様子を共有していただきありがとうございます。卒業した子たちの様子も見ることができ、うれしく思いました。
①・1年生の復習を丁寧に行われていて、子どもたちも1年生までの内容を思い出すことができたかと思えます。
・連立方程式の意味や活用場面を子どもたちに身近な班編成の場面で考えさせることで、より内容が理解しやすかったように感じます。小学校でも、計算はすぐできても、なぜその式なのか、なぜその計算方法で解けるのかを理解できていない子が多いので、具体的なイメージをさせることが大切だなと感じました。



【取組内容①】個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

学習活動において、探究的な課題設定からの授業改善

本校では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図るために、学習活動において、ルーブリックとセットにした探究的な課題（資料A・C）を設定し、授業改善に取り組んでいる。このような課題を設定することで、生徒は課題解決に向けて、各自で各時間の「めあて」などを設定し、GIGA端末を用いて個別最適な学びを進めている。

また、このような課題を解決するため、さらにはよりよい答えを出そうとする中で、Jamboard（資料B）やChatなどを用いて他者参照を行い学習を進めている。

このように、教科の学びにおいても探究的な課題を設定することで、生徒はGIGA端末を用いて個別最適に学びをすすめ、よりよい答えを導こうと主体的に学びを進めることができる。また、GIGA端末だからこそ自分の必要なタイミングで他者を参照して学びを進めることができる。

「不便」の価値を見つめ直す

学習課題
文章に書かれた内容をスライドに分かりやすくまとめ、事例を示し根拠を明確にして意見をまとめよう。

これが正しくまとめられたら、正しく読み取れ、自分の考えをもつことができている。

資料A

「不便」の価値 1組11～

資料B

単元名	学習課題	設定されたルーブリック
箱ひげ図	好きなデータを分析して発表しよう	A：作成した箱ひげ図を用いて、箱ひげ図に関する用語を用いながら分析することができた B：作成した箱ひげ図を用いて、分析することができた C：分析ができなかった

資料C

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」

情報活用能力の育成を目指して設定した「情報の時間」の活用について

本校では、2週間に1度程度、特別な日課を実施し「情報の時間」を行っている。（資料A）この「情報の時間」では、情報の活用やネットモラルなど、情報に関する内容を幅広く生徒と共に学ぶ時間としている。

このような時間を実施するにあたり、教員にも幅広く、尚且つ正確な知識が求められる。このような取組を行うことで、教員の負担は大きなものとなる。そこで、本校ではYouTube上にあげられている動画（資料B）などを資料として用いて学習を進めている。このようなインターネット上の動画を活用することで、上記したような教員の大きな負担を軽減することに繋がった。

さらに、学んだ内容をGIGA端末を用いて、自宅で保護者とともに視聴することも可能となった。また、生徒と共に情報活用に関する内容の動画を作成し（資料C）、クラウド上に動画を掲載している。このような動画教材を通して「情報の時間」を効果的に実施している。



資料A



資料C

自 第5回（9月） 投稿日: 2023/09/13

期限なし

ネットストーリーについて
<https://www.youtube.com/watch?v=mWGNiH1Bk>

0 229
 提出済み 割り当て済み

情報活用学習「SNSのやり取りについて」 情報活用学習（9月）.mp4 動画 情報活用学習振り返り Google フォーム

手順を表示

資料B

【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

一人一台端末をいかす授業の配信と家庭学習の取り組み

本校では、原則として端末を日常的に自宅へ持ち合えるように取り組んでいる。このような取り組みを行うことで2つのメリットを強く感じる。

1つは、学びの保障についてである。コロナ禍を過ごしたことで、発熱や体調について非常にナーバスに社会になった。そこで、本人の体調に異常が無くても、万が一に備え欠席することがある。端末を持ち帰ることで、そのような生徒に対して、授業の配信を行うことで学びの保障を行っている。そのために、教室には配信用端末を常備している。（資料A）

2つ目は、家庭学習の充実である。学習に関する情報や提出物などをGIGA端末で管理（資料B）することで、生徒は自宅で自ら提出物の確認をすることができる。さらには、提出物などの学習教材はクラウド上で管理されているので、自分が学びたいタイミングで学ぶことができる。これまでのような、学習教材を「自宅に忘れた」「学校に忘れた」といった理由で学びが妨げられることがなくなった。



資料A



資料B